



南西面全景。JRと豊橋鉄道の線路に面する。



穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

選評

穂の国とよはし芸術劇場PLATは、豊橋駅周辺を核とするコンパクトな都心部再構築の一環のひとつとして豊橋鉄道渥美線線路跡地に建設された。コンパクトな都市を指す中心核として、利便性が高く賑わいを集中させるためには最適な場所ではある。しかし、狭小敷地、列車の騒音、振動、鉄道の運行による工事上の制約など、計画遂行上多くの難題を乗り越えなければならなかった。

人口約三七万人の豊橋市にとって、高い機能を保ちつつコンパクトにまとめた劇場である。地方都市の厳しい財政事情から、運営、ランニングコストを抑えつつ、より高い演劇創造空間の実現を目指し、大きくつくらずさまざまな工夫と現実的方策により実現している。

劇場への主要な導入路は、利便性を第一に、駅から直接結ばれているペDESTリアンデッキである。このペDESTリアンデッキの二階エントランスから眺める、劇場の中心核である交流スクエアでの賑わいは、地域の交流施設のようなコンパクトで親和感があり、市の規模にふさわしい空間である。市民の創作活動室、アトスペースを集中させて交流スクエアの周りを取り囲むことで、設計のコンセプトである、催しがなくとも施設が日常的に「いつでもにぎわう」ことが具現化されている。

この劇場の特徴は、大ホールの規模と舞台形式の可変性にある。客席は七七八席のコンパクトな、舞台先端から客席最後部までの奥行が二四層に抑えた親密感のある構成である。また、さまざまな演劇表現に対する舞台形式（奈落、花道、オーケストラピットなど）の可変は、束立て床や、取り外し

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2016年で57回を数えます。

< 2016年 第57回 BCS賞受賞作品 > 飯野ビルディング 大手町タワー／大手町の森 京都国立博物館 平成知新館 グランフロント大阪 高志の国文学館 ザ・リッツ・カールトン京都 住田町役場 東京スクエアガーデン 流山市立おおたかの森小・中学校、おおたかの森センター、こども図書館 日清食品グループ the WAVE 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 八幡厚生病院本館 山梨学院大学国際リベラルアーツ学部棟 Ribbon Chapel 龍谷大学 和顔館 [特別賞] 札幌市北3条広場・札幌三井JPビルディング 日本橋室町東地区開発：室町東三井ビルディング、室町古河三井ビルディング、室町ちばぎん三井ビルディング、福徳神社



建築主 より 豊橋の個性を確立し、地域のさらなる活性化を目指す

穂の国とよはし芸術劇場「PLAT」は、オープンから5年目を迎えました。これまで芸術やエンターテインメント性に富んだ幅広い作品の上演や、ダンス、音楽の練習、発表といった地域の皆様が交流する文化の拠点として親しまれ、年間30万人を超える方に利用していただいています。

このことは、劇場の設計段階から、ホール規模をはじめ、舞台設備や客席などについて、利用者をはじめ運営者や設計・施工者と数え切

れないほどの論議を重ね、良質な劇場環境を実現できた賜物であると関係者に感謝しています。

今や名古屋やその周辺の様々な地域から、そして、首都圏からも観客を呼べる劇場となりました「PLAT」は、多くの劇場関係者にも注目される施設となっています。今後は、より質の高い公演作品を創造し、全国へ発信していくなど、個性ある東三河地域の拠点劇場として、その役割を果たしていきたいと考えています。



豊橋市長
佐原光一
Koichi Sabara

設計者 より

市民文化の伝統を今日につなぎ、都市の新しい中心をつくる

豊橋の文化芸能の伝統を、更に強めた新しくする、市民のための都市文化施設を作る、これがこの計画の目指すところでした。

駅に直結する敷地は、その目的には、願ってもないものでした。人の流れは、前庭から劇場ロビーへ誘いこまれ、そして内部の気は、都市の四方に向かって放射されます。線路からの振動・騒音を防ぐ課題に正面から取り組むことで、重厚な煉瓦壁の上に、華やかな曲面壁が浮遊す

る、シンボリックな造形が生み出されました。

一級の舞台芸術の公演から、多様な市民の創作活動までを可能にする、これまでにない文化施設を作り出すためには、企画構想から管理運営の問題までを総合的にとらえて設計する必要があります。そのためにわれわれ設計組織と、大成建設設計本部が終始一体となって取り組んだ体制は、今後の一つのモデルを示し得たと満足しております。



有限会社香山壽夫建築研究所 所長
香山壽夫
Hisao Kobayama

施工者 より たくさんの人々の“記憶に残る建物”

東三河地方の中核を担う豊橋市を代表するような劇場を、施設計画・施工・建物管理を一貫して行うPFI事業により、地元企業である豊田組の方々と企業体として取り組んできました。

工事開始直前には、東日本大震災の影響による職人不足もあり、予定通りとはいえない状況のなかで始まった工事でした。特に思い入れがあるのは、主ホールを彩る色とりどりの木ルーバーで装飾された壁面です。限られた工事期間

に間に合わせるため、あらかじめ塗装を行った木を工場パネル状に組み上げ、取付を行いました。豊橋の伝統文化である手筒花火をイメージさせる鮮やかな色彩の壁は、日常とは違う世界観を味わっていただくのにふさわしい仕上がりとなりました。

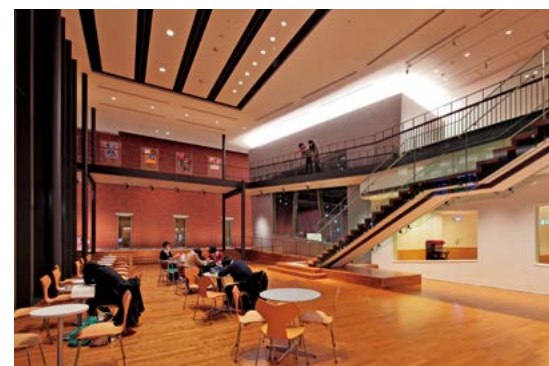
工事関係者や利用される方々にとって、記憶に残るホールを実現できたこと、また、それに携わることができたことを誇りに思います。



大成建設株式会社 名古屋支店 作業所長
小西雅史
Masafumi Konishi



主ホールの客席。イベント風景。壁は色とりどりの木で仕上げられている。



上/交流スクエア。創造活動諸室が囲む。下/緑の広場でのイベント風景。



が容易な軽量の椅子など、機械に頼らず人力による日常運用ができるきめ細かい工夫がなされている。二〇一三年四月に開館して以来、市民の舞台創造活動に対し、本館の事業制作スタッフから積極的にアドバイスが行われ、単なる貸館ではなく、東三河地域の文化活動の核として、アーティストや劇団の発掘、人材育成の場としても積極的な運用がなされている。外観は、赤褐色煉瓦壁の基壇部と特徴的なデザインであるアルミ壁の上部からなる構成である。特

に基壇部の煉瓦の大壁は、建物間際を疾走する鉄道に対する堅牢性の土木的表現であり、騒音、振動、耐震性に対しても高い性能を有している。本施設は、豊橋市の現状と将来の展望に対する施策として、市民の豊かな文化活動を支援するため、厳しい財政のなか、建築主の熱意、設計者の緻密な対応、施工者の高い技術が結晶した公共施設である。

【選考委員】
小嶋一浩・陶器三三雄・小林照雄

計画概要

建築主：豊橋市

設計者：(有)香山壽夫建築研究所
大成建設(株)

施工者：大成建設(株)
豊田組

所在地：愛知県豊橋市西小田原町123
竣工日：平成25年4月30日

敷地面積：7,612㎡
建築面積：4,221㎡
延床面積：8,036㎡

階数：地上4階
構造：鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)